

平成 27 年 12 月 9 日 立入禁止エリアへの侵入者

福井県で行っているコウノトリの飼育繁殖放鳥事業の目的は、動物園を作ることではありません。コウノトリの野生復帰であり、コウノトリペアは、コウノトリの郷公園では飼育員しか入ってこないエリアで暮らしていました。とても神経質で、現場の飼育員は毎年、産卵にたどり着くまでに神経をすり減らしながら仕事をしています。立入禁止エリアを設けて、飼育員も私服では入れないルールを作っています。作業はなるべく減らし、少人数で。もちろん、看板もフェンスも設置しています。それなのに…



全く躊躇することなくフェンスを越えようとしています。

そもそもこの時点で立入禁止の道ですが、2名のご見学者様が写真撮影をいらっしゃいます。



2015/12/09 11:21:05
ケ-リツトカ71

まずご見学者様の一人がフェンスを越えます。黒の長靴を履いているので越えやすいでしょう。



もう一人も長靴なので躊躇うことなく越えます。このために長靴を履いてきたのでしょうか。

パニックを起こして飛びあがるふっくん。見知らぬ人の思わぬ行動が凄く怖いのです。



「コウノトリときどき報告」は、ふっくんさっちゃん家族の楽しい記事でいっぱいになりたい。本当はこんな記事、書きたくありません。でも、書かざるを得ませんでした。驚いたコウノトリが壁に激突して怪我をしたら？死んでしまったら？身の危険を感じたさっちゃんが卵を産まなくなってしまうたら？ふっくんとさっちゃんは血統上も非常に重要なペアで、兵庫県からの大切な借りものです。誰も見ていなければ、南京錠のついたフェンスを越えても良いのですか？自分の両親くらいの年齢の二人の姿に、悲しく情けない気持ちになりながら、「立入禁止」の看板をそっと増やしました。

この後、ケージの内扉ギリギリまで入ってきて写真を撮るなどしていました。